

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立嘉瀬小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和7年4月17日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

(2) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

■ 教科に関する調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は、小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は、各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■調査結果及び考察

1 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結 果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と肯定的に回答した児童の割合。

佐賀市学校教育ビジョンに関連する調査項目	本校 %	全国平均 %
学校に行くのは楽しいと思う。	80.4%	86.5%
将来の夢や目標を持っている。	87.8%	83.1%
自分には、よいところがあると思う	82.9%	86.9%
学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	78.1%	84.9%

「将来の夢や目標を持っている」の項目は、全国平均より高い結果が出ています。一方で、自己肯定感の項目については、全国平均よりも低い結果が出ています。これからは、児童に自分で考え、自分で決めて挑戦する自己決定の場面を多く経験させ、それを承認していくことで、自己肯定感を高めていきます。さらに、これを継続することで、学校が楽しいと思う児童も増やしていきます。また、話し合い活動の価値を見出していない児童もいるため、子どもの考えを「ひきだし」「つなぐ」授業実践に取り組んでいきたいと思っています。

家庭学習の様子に関する調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	7.3%	12.1%
「2時間以上、3時間より少ない」	12.2%	12.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	24.4%	29.1%
「30分以上、1時間より少ない」	31.7%	27.4%
「30分より少ない」	17.1%	12.9%
「全くしない」	7.3%	5.7%

家庭学習については全国平均を下回っています。1時間未満の児童が5割以上おり、中には全く家庭学習をしていない児童も一定数いました。かなり個人差が見られるので、「家庭学習の手引き」をもとに家庭学習の目的や意義を児童や保護者に引き続き伝えていきます。また、学期に一度、設定している「家庭学習強化週間」を積極的に活用し、家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。

(2)改善に向けての取り組み

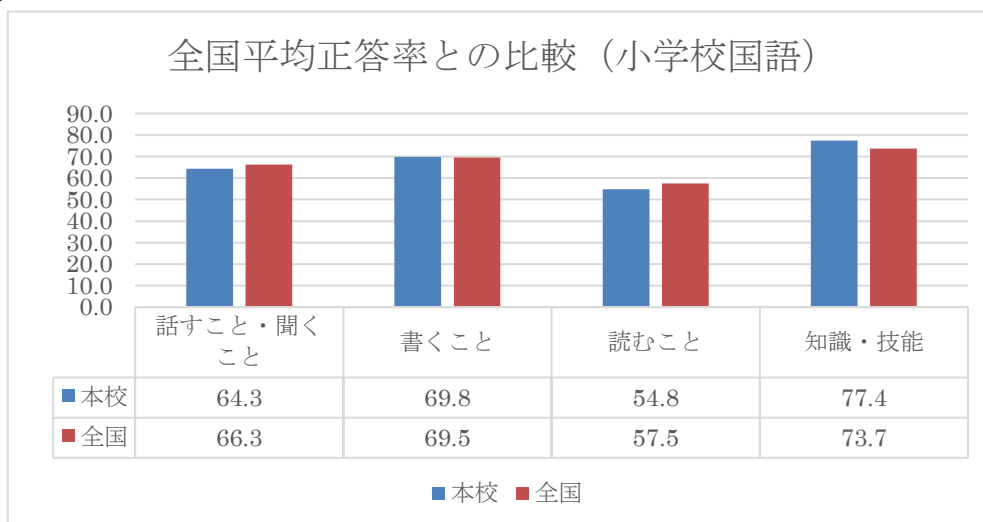
【学校では】

- 自分で考え、自分で決めて挑戦する力を育むため、課題解決のときには自分に合う学び方（例：既習事項を使って自分で考える、教科書を参考に自分で考える、1人1台端末でQRコードを読み考える、友達と一緒に考えるなど）を選択できるようにします。また、授業中には、伝え合う時間を設け、自分の考えを広げたり深めたりすることで、話し合い活動のよさに気付かせ、進んで学び合うことができる児童を育てていきます。
- 学校からは、学習習慣を身に付けられるように学年に応じた宿題を出しています。自主学習については、お手本になる自学ノートを掲示するなどして、定着を図っています。高学年では自分で計画を立てて学習に取り組めるような宿題の出し方を工夫していきます。

【ご家庭では】

- 主体性を育むために、児童が自己決定できるような声掛け（あなたはどうしたいの？自分で考えて決めていいよ。など）をご家庭でも心がけてください。
- 「家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間のめやすや、学習の進め方を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。

2 国 語



(1) 結 果

「書くこと」「知識・技能」は、全国平均正答率を上回りました。一方、「話すこと・聞くこと」「読むこと」は全国平均正答率を下回る結果でした。また、無解答率をみると、全問題で全国平均よりも低く、努力のあとが伺えます。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「知識・技能」が 3.7 ポイント上回りました。これは、国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす言葉の力であり、普段から取り組んでいる漢字や言葉の学習、音読などの成果が表れていると考えられます。課題は、昨年同様「読むこと」の正答率を上げることです。正答率は、全国平均正答率を 2.7 ポイント下回っており、苦手であると感じている児童が一定数います。特に、目的に応じて文章と図表などを結び付け、必要な情報を見付ける問題に課題が見られました。そこで、授業では、文章と図表などから必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりするなどの活動を通して、複数の情報を結び付けて読み取る力を高めていきます。

(3) 学力向上のための取り組み

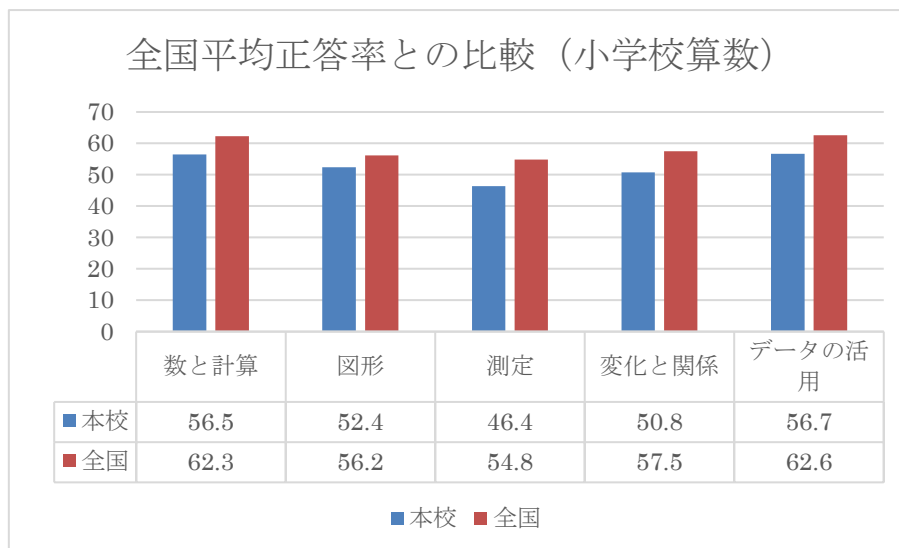
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子ども同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 説明や解説、意見、提案、報道などの文章や図表を結び付けたり、比較したりして読み、分かったことや考えたことを話し合ったり、文章にまとめたりする活動に取り組みます。
- 目的や条件に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながら書く機会を増やしたり、インタビューや案内したりするなど、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

【ご家庭では】

- 言葉や文章に触れる機会をたくさん作りましょう。本や新聞を身近に置いたり、学校での様子や学習したことなどをお子さんに聞いたりしてください。
- 音読を大切にしましょう。繰り返し音読することで、文の構成、文節ごとの区切り、言葉の意味を理解することができ、要点や意図を捉えることもつながります。

3 算数(数学)



(1) 結果

全ての領域で全国平均を下回っています。特に、「測定」の領域は、全国平均との差が大きくなっています。また、短答式・記述式の無解答率は、全国平均より高い結果となりました。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「A 数と計算」領域の示された資料から必要な情報を選び、数量の関係を式に表し計算する問題の正答率が全国平均を上回りました。これは、日頃の授業の中で、問題に線を引いたり、印をつけたりして場面を整理しながら課題解決に取り組んできた成果が表れていると考えられます。一方、「B 図形」領域の五角形の面積を求めるために五角形を三角形と四角形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を式や言葉を用いて記述する問題の正答率が全国平均を下回りました。今後は、これまでに学習した公式や考え方を応用した問題に取り組んだり、論理的に記述したりする経験を繰り返すことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

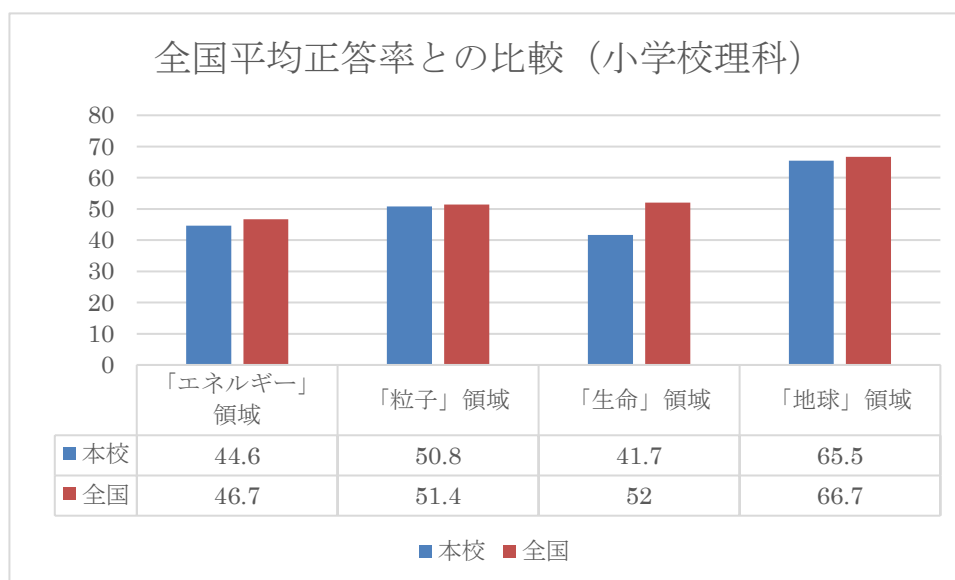
【学校では】

- 式から答えを出すだけではなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、図・式・答えを使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- 主体的・対話的な学びを実現するために、子どもの考えを「ひきだす（理由や根拠、意味などを問う）」「つなぐ」（考えの全体共有）授業づくりに取り組みます。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数への抵抗を減らすためには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身の回りには算数を使えるものがたくさんあります。

4 理科



(1) 結果

ほぼ全国平均と同等か下回る結果でした。特に「生命」の領域では、10ポイント以上の差で大きく下回る結果でした。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「粒子」領域で設問6問中4問が全国平均を上回る結果でした。特に、水の蒸発について、温度によって水の状態が「蒸発→水蒸気→液体の水」に変化するという選択肢を選ぶ問題の正答率が全国平均より7.2ポイント上回っていました。日常生活の中の経験と学習が結びついた問題への理解は高い傾向がみられました。その反面、「生命」領域で観察に用いる顕微鏡の正しい操作を答える問題では、全国平均正答率を大きく下回り、実際に操作を経験する機会が少なかった問題に課題がみられました。以上の成果と課題から、理解の定着には「経験値」が大きく左右すると考えられます。例えば、グループでの実験では全員が実験器具を必ず操作する機会を設けたり、既習の学習を復習して学習したことを思い出したりすることで、少しでも「経験値」を上げていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 器具を操作する実験・観察では、身につけたい力を簡潔に説明し、全員に操作をする機会を設けます。また、既習事項を繰り返し復習したり、実験器具を操作したりして、知識・技能の定着に努めます。
- 理科の学習過程を「事象提示→課題→予想→実験・観察→結果→考察→課題・・・」とし、一貫した学習指導を行うことにより、児童の思考力、判断力、表現力を向上させます。

【ご家庭では】

- 理科が好きになる場合も、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」という経験をさせることが有効です。星空を見上げて星座の話をしたり、コップの結露の理由を考えたりすることで、習ったことと日常生活での現象を結びつけると理解が深まることもあります。
- 佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館などのイベントチラシ等も配布しております。お時間があるときに一緒に行ってみることで、興味関心が向上することもあります。